



「焼花瓶」陶芸
高前 美恵子さん（備中町平川）



「野立の席」押絵
大東 一誉さん（成羽町下原）



「位置について」版画
松田 枝理さん（有漢西小6年）



「美・アスリート」デッサン画
井上 明彦さん（備中町平川）



「太陽柱」（1月14日撮影）
久保木 昌さん（宇治町遠原）

＜解説＞
太陽柱：凍りついて結晶になった大気中の水分が、太陽の光に反射して柱状に見える現象。気温が低く風がないなどの条件がそろった時に、日の出や日没に見られます。温暖な岡山県では珍しい現象です。

作品の募集について

自作の川柳、短歌、俳句、絵手紙、町の風景写真、絵画など
未発表の作品に限ります。
一人一作品とします。
絵画は、その写真をお送りください。
住所・氏名・電話番号・年齢を明記の上、お送りください。
締め切り 掲載号の前月の末日（必着）

【送り先】〒716-8501（宛先住所不要）
高梁市役所企画課公聴広報係
応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
提供いただいた写真等は返却できません
Y企画課公聴広報係 ☎0210
Eメール：kikaku@city.takahashi.okayama.jp

市民のページ

文芸たかはし

（敬称略）

短歌
屋根の雪夜の沈黙を破る音軒先掠め激しく落る
梅野 八郎（松山）

七草の香りさやけし厨辺の湯気のみむこうに春を想いぬ
小野はる恵（原田南町）

ありがたき母笑み残して逝きませりやがては我も笑みて逝きなん
坂田 昭夫（松原町）

雪降る日小首かしてシクラメンわたしの帰りを待ち侘びて居る
西井百合子（横町）

月明り軒に吊せる干し柿の優しき影が障子に映る
平 初音（高倉町田井）

おはあちゃん行って来るネと孫娘一人の門出成田の空はよく晴れて
戸田奈美子（川上町地頭）

戦犯の合祀きらえど中国の孔子の教え死して邪気なし
原田 由き（高倉町飯部）

粉吹雪舞散る谷間杉木立枝の積雪はつきり落し
田中 弘子（川上町領家）

俳句
毛づくろいする猫と居て日向ぼし
長原 茂子（備中町西油野）

瀬戸内の珍珠ゆらゆら軒先に
平松 幾代（長寿園内）

着ぶくれて娘と肩寄せて夜バス行く
三村 節子（伊賀町）

冬が来て雪がちらはらまどの外
吉岡 麻江（成羽病院内）

川柳
市と云はれ過疎に变りは無いものを
藤井タツ子（備中町西山）

地名をあそぶ

四、川上

「川上町」は地形の特色から二つに分けることが出来ます。

一つは、領家川や支流の谷間沿いにある、浸食された峽あいな河成段丘状の低地で、多短谷の地形を示す地域なのです。二つには、吉備高原上の小起伏面の地域であります。特に小起伏の高原上に突出している弥高山（六五三・六m）や、北東にある須志山（五二一・七m）などはいずれも玄武岩の残丘です。弥高山を中心とした高山市付近には海棲化石の多い中新世層が見られたり、最も小起伏面が発達する「川上面」といわれる高原には高瀬層（山砂利層）の分布が見られたり、そして上大竹神野付近の石灰岩台地や大賀デッケン（大賀の押被）など地質や地形学上注目されている地域なのです。

「川上」という地名は「和名抄」には見られませんが、下道郡の中に「弟騷」（和訓に「勢」）郷が書かれています。その後鎌倉中・末期の「拾芥抄」（尊経閣文庫版）に、備中九郡の一つとして「河上」の地名が初めて出てきます。

「川上郡」はこの頃下道郡の北部地域四郷が分かれて成立したものの「大日本地名辞書」吉田東伍（一）といわれています。中世室町時代中期以降になると、「手荘」が山城国相国寺領の荘園として挙げられています。応永元年（一三九四）のものを写したといわれる「吉備津宮惣解文」の中に河上郡六郷の一つとして「手郷」や「穴戸郷」の地名が見えて、「岡山県古文書集」に「手荘」（郷）は、元川上町の領家川下流一帯に比定されています。

今に残る「地頭」・「領家」の地名は、川上町の中世（鎌倉 南北朝期）の荘園時代を知る上で重要なのですが、土地を地頭方と領家方（領主方）に分割した下地中分の名残りなのでしょう。七地区の南の端、地頭の町を見下ろす場所に、戦国時代に松山城の支城だった国吉城跡（四一五・五m）があります。備中兵乱で政親一族が毛利によって滅ぼされた皆で激戦の様子が「備中平乱記」に書かれています。西の高山市は高原上にあつて、物質の中継地として、また、穴門（戸）山神社の門前町として町が出来定期市（三音市）が立ったり、牛市も開かれ大変にぎわったところです。

「川上町」は「天保郷帳」（一八三四）に、一〇か村が書かれ、明治一九年（一八八六）では大竹村が上大竹と下大竹に分かれて一か村になり昭和二八年の町村合併では手荘町、高山村、大賀村の三町村となつて一九八八年に川上町が成立し、当時の村名が大字として残っているのです。

「川上」という地名は数多く見られ「川上郡」の「川上」は文字通り、「川の上流域」を示すものですが、「川（河）の付く地名は、古くから井戸や堀、池などを表すことが多く、日本人にとっては「水のある所」が「かわ」や「い（井）だった」（地名用語語源辞典「楠原佑介他編」）のです。「川上町」の「川上」は、合併時に命名されたのですが、「川上郡」の代表的地域「即ち川上郡にあやかる意味を含めて「川上に位置する」という意味から付けられた地名なのです。このように地名には地域の人々の願いが込められているのです。



七地側より地頭方面を望む

1月号下段7行目「二万五千石」とあるのは、「三万五千石」の誤りでした